

ふるまひの 訛なつかし

停車場の 人ごみの中に

それを 聴きにゆく

啄木

ふらっとホーム

年々歳々世の中は便利になり、駅の雰囲気もだいぶ変わって来た。地方に行っても首都圏と同じような形態の駅が増え、デパ地下ならぬ駅ナカでの行列も見慣れた風景になって居る。その反面、旅情をそそるような駅の雰囲気は薄れ、旅は味気なくなって来ている気がするの
は一人私だけであろうか？

東京駅開業100周年記念スイカに1万人が集まり、大混乱になったニュースは耳に新しいし、この3月14日には東海道線と東北線が『上野東京ライン』として繋がり、唯一残っていたブルートレイン「北斗星」も無くなってしまった。

昔は冬になると屋根に雪を積んで入って来た夜行列車が何本もあったのだけれど、それはもう見る事が出来ない。

「上野発の夜行列車」は歌謡曲だけの世界になり、庶民のドラマと夢がまた一つ消えて行った。









マージナル・ピープル。 55033

THE ORIGINALS OF SKIWEAR DESIGNER PHENIX KEATS FOR THE ORIGINALITY OF HIS DESIGN

PILOT SUIT (44-54)
A 2-piece suit with a high collar and a large pocket.

PILOT SUIT (44-54)
A 2-piece suit with a high collar and a large pocket.

DUO-SUIT
A 2-piece suit with a high collar and a large pocket.

DUO-SUIT
A 2-piece suit with a high collar and a large pocket.

DUO-SUIT
A 2-piece suit with a high collar and a large pocket.

PHENIX

もう一人の自分がそこにいる。

ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY



ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY

もう一人の自分がそこにいる。

ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY
ALPA CITY



生活エンジョイ物語



AL



駅は楽しい?

旅は人生の縮図と言うけれど、旅が人生なのか、人生が旅なのか?、旅のスタート地点である駅には色々な人が居る。

カメラ片手に人間観察をして居ると、男性・女性、どっちだかよくわからない人、大人に子供、赤ちゃんに、外国だと犬や猫も居るのだけど、日本ではハトやスズメ位だろうか? (最近では日本にもネコの駅長が居るらしい)

一時、「いい日旅立ち」の流行った頃だろうか?、大きなポスターのキャッチコピーと前を通る人を見て居ると、その取り合わせの面白い事に気が付いたのでその幾つかを選んで見た。この人達には失礼かも知れないけれど、30年も経てばもう時効だろうと思う!?

そう言えば最近、心にグッとくるキャッチコピーやウイットのあるポスターに出会わない気がする。単に僕が目が悪くなっただけなのか、感性が鈍って来たのか?、気になるところだ。







いっそセレナーデ？

もう20年くらい前になるのだろうか？、仕事で埼玉に行く時、上野から東北本線の普通列車を利用することが何度かあった。発車するとすぐに「ミソドミレシソ〜 シソラファ#ソ〜ソ」と言う車内放送のオルゴール音に続き（『ハイケンスのセレナーデ』と言うそうだ）、落ち着いたバリトンの声で車掌さんが…

「この列車は8時36分発、東北線普通列車、黒磯行きでございます。列車は15両編成、グリーン車は後より4号車と5号車、お手洗いは先頭15号車と中ほど11号車、最後部1号車でございます。」

「途中、主な停車駅と到着時間をお知らせいたします。これより尾久、赤羽の順に停車いたしまして、浦和には8時54分、大宮には9時1分、久喜9時17分・・・（中略）、終着駅黒磯には11時20分の到着でございます。」と言う長いアナウンスをしたものだ。さらに乗継ぎ列車の時刻まで知らせてくれる車掌さんも居た。

3月初めのある日、徹夜明けの朝、僕は埼玉に向かう雪景色の車窓を不機嫌な顔で眺めながら、「なんでこんな仕事で、徹夜までしなければならぬのだ！」

「いっそのまま黒磯から仙台、盛岡辺りまで行ってしまおうか!？」などと自問自答して居た。赤羽を過ぎ鉄橋を渡り、埼玉県に入っても銀世界は続いて居る。するとまたオルゴールの音とともに、「次の停車駅は浦和、浦和でございます。」と言う落ち着いた声が聞こえてきた。その声に促され、ふと我に帰った僕は、無事に下車することが出来ただけけれど、あそこで降りなかったら、その後の人生は変わっていたかもしれない…？

最近ではJRに限らず鉄道の職場にも女性が増え、運転手さんも居れば車掌さんも居る。体力的にはどうなのだろう？、運転席の窓から見える姿は電車の大きさに比べ、ずいぶんと小さく見える。

女性の柔らかい声は、通勤時間帯の殺気立った雰囲気のを和らげるのには良いかも知れない。しかし、旅情というよりは別の感情(?)をそそるような気がしないでもない。

今回の企画のため2・30年前の古い写真のネガを見て居ると、写っているのは運転手も車掌もすべて男性だ。鉄道はまだ完全に男社会だったのだろう。あの時もし停車駅を告げる声が美しい女性の車掌さんだったら、僕は浦和で降りずそのまま次の列車に乗り継ぎ、仙台の一番町あたりで『いっそセレナーデ』でも歌っていたかも知れない？

そう考えると、あの当時のベテラン車掌の落ち着いた声とオルゴールのちよつと歪んだ『ハイケンスのセレナーデ』には感謝しなければならないと思う。









撮影リスト1-4 1992.1 東北本線 上野
5-6 1988.12 東北本線 上野
7 1987.3 東海道本線 横浜
8 1989.3 東海道本線 横浜
9 1987.3 東海道本線 横浜
10 1988.12 東北本線 上野
11 1969.3 函館本線 大沼公園
12 1990.8 津軽鉄道 五所川原
13 1967.8 羽越本線 坂町
14 1969.3 函館本線
15 1969.3 室蘭本線 白老
16-17 1990.5 伊豆急
18-20 2007.12 京浜東北線 新子安